



診察室における言葉の玉手箱 ～第7回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

11. 聴覚は最後まで残る

「こんにちは、お父さんの様子はいかがですか」

「呼びかけても反応がなくなりました。以前、大声を出して私たちを困らせていた頃や、最近でも声をかければ、声を出したりうなずいてくれたりした頃が懐かしくなります。まったく反応がないということは、本当にさみしいことですね。お世話のしがいが無いとおもいます。このまま家で見ていくより、病院や施設に入れたほうがよいと思うようになりました」

「お父さんは、以前、認知症がひどくて、帰宅願望やもの盗られ、毒を盛られているという被害妄想がひどかったですね。そのときは、不安感が強くて険しい顔をされていたが、今は、非常に穏やかな表情をされていますね。不安も苦痛もない状態とってよいでしょう。」

話は変わりますが、脳死の判定方法のひとつに聴覚反応というものがあります。強い音を聞かせても脳波に反応がなかったとき脳死と判定する根拠のひとつとなるものです。逆に言えば、脳死になるまでは聴覚は反応していることとなります。つまり、**聴覚は最後まで残っている**のです。昏睡状態であっても、家族のなじみの声が聞こえることがご本人の状態を安定させることになるのです。話の内容がわからなくても、家族の方が話しかけると穏やかな表情になることは日常的です。

ですから、こん睡状態であっても、家族の皆さんが身近にいて話しかけてあげることが最大の治療であるといっても言い過ぎではありません。反応がないから何もしてあげられないと悩むことはありません。施設や病院に入れたほうがよいと考えないで、自信をもって介護を続けてください」

「なるほどよくわかりました。気持ちですっきりしましたので、今後は迷わずに家で最後まで見てあげたいと思います」

12. おばあちゃんの作った料理は塩辛い！

「先日、家のお義母さん、私が作った料理を、『薄味でまずい』といって、目の前で醤油をかけるんですよ。私が味見して作った料理の味を台無しにして、私に対するいやみでしょうか」

「せっかくの料理を台無しされたという気持ちはわかります。ところで、お義母さんは、最近、塩辛い料理を好まれていませんか」

「そういえば、最近、漬物や佃煮、梅干などをいつもテーブルにおいてはご飯のとき食べています。また、お義母さんの作った料理を食べたことがあります。味が濃くなっているような気がします。もともと農家育ちで、塩分の多いものを食べていた人ですから、そういうものかと思っていました」

(つづく)





診察室における言葉の玉手箱 ～第7回（つづき）～

「高齢になると、味覚も変化するのですが、塩味がもっとも低下して、酸味・甘味も衰えますが、苦味は若い人とあまり変わらないと言われていています。ですから、若い人が吟味した味付けは、お年寄りにとっては、薄味で物足りないと感じられるのです。濃くしてはじめてちょうどよくなるお年寄りの作った料理は、若い人には濃すぎると感じられるわけです。このような特徴が理解できないと、世代間の行き違いが深まることになります」

「今までお義母さんは私をいびっていると思っていたことが、そうでないとわかりました。正しく理解することが大切ですね。でも、先生、お義母さんは血圧が高いし、心臓も悪いと主治医から言われていまして、塩分制限が必要なのに、どうしたらよいでしょうか」

「高齢者は塩分の濃い味付けでないと満足できないのに、一方で、塩分制限の必要な人が多い。これは矛盾ですね。でも、私たちの味覚の特徴を理解していれば、必ずしも解決できないわけではありません。全体が薄味であっても塩分の濃いものが混じっていてそれが舌に触れた瞬間塩辛く感じるものです。たとえば、魚料理で、煮魚ですと身全体に塩分がしみこんでいますから塩分の摂取量は多くなります。しかし、塩焼きにすると、表面についた塩が舌にふれただけで塩辛く感じて、身には塩分がしみ込んでなくても満足できます。そのほかに、調味料を上手に使うことで、塩分が少なくても満足できる味付けができると思います」

「わかりました。お義母さんにおいしく食べてもらうように、いろいろ工夫したいと思います。なんととっても、お年寄りには、食べることが一番の楽しみですからね」

「それを聞いて安心しました。ところで、先ほど、苦味は若い人とあまり変わらないと話しましたが、なぜかわかりますか」

「どうしてですか」

「私は、生物の進化の歴史を現していると思っています。自然界にあるもので苦味のあるものは生物にとって有害なものが多いですね。苦味に敏感な種族は、それより鈍感な味覚しか持たない種族より、有害のものを摂取することが少ないので、生存に有利になります。私たちは生存競争に生き残った種族の子孫ですから、苦味に最後まで敏感であるといえます」

「高齢者の味覚の変化からいろいろなことがわかるのですね。どうもありがとうございました」

